

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

株式会社ふくし・ファーム

②事業者情報

名称：	よしかわ杜の保育園	種別：	保育所
代表者氏名：	染谷 美賀子	定員(利用人数)：	90 名
所在地：	〒 342-0061 埼玉県吉川市中央1丁目9-24	TEL	048-982-1090

③評価実施期間

令和7年7月1日（契約日）～令和7年12月16日（評価結果確定日）

④総評

◇特に評価の高い点

保育室は、遊びに応じた絵本コーナーなどを設けているほか、室内の玩具や教材は自由に手に取れるようにしており、子どもたちは自分のペースで遊ぶことができるようにしています。園庭では、鉄棒や三輪車、縄跳びなどを使い、体を思い切り動かしながら遊ぶことができます。また、3・4・5歳児は大型遊具の利用を段階的に進め、0・1・2歳児は低年齢用の遊具で安全に楽しめるよう工夫しています。また、散歩は週2回程度実施しており、大型遊具のある公園や広場などに出かけています。散歩先では、鬼ごっこやリレーを楽しむほか、松ぼっくりやタンポポなどの植物、犬やカエルといった生き物にふれることで、自然の変化や命への関心を育んでいます。職員は子どもと関わるうえで「共感」することを大切にしており、一緒に遊び、喜び、子どもの気づきや発見に寄り添っています。

子どもの発達段階や体調に応じて、年齢別に必要な栄養素を反映した献立を立案しています。和・洋・中のバランスを考慮しながら、季節の行事にちなんだ料理（節分のメニュー）や、郷土料理の「喜多方ラーメン」、世界の料理「ケバブ」など、さまざまな食文化にふれられる献立を提供しています。また、「鉄分強化DAY」にはレバニラなどを取り入れ、子どもの体調管理にも配慮しています。さらに、誕生月の子どものからのリクエストメニューも採用し、食事への楽しみを広げています。食育では、「健康な心と身体を育む食を知り、生きる力を育てる」ことを目標に、栄養士を中心として取り組んでいます。3歳児クラスからはトウモロコシの皮むきやキャベツちぎりなどの調理体験を通して、五感を使って食への興味を育んでいます。5歳児クラスでは、炊飯活動としてカレーづくりを目標に、調理器具の扱いにも挑戦しています。こうした多様な献立や調理活動を通じて、子どもたちの食に対する興味・関心を育んでいます。

今年度から、法人として4年間の中期経営計画「すくすくプラン」を策定しています。法人が掲げる「目指す保育の姿」の実現に向けて、施設長や主任などの役職ごとに研修の機会を持ち、「主体性」をテーマに保育について意見を交わす時間を設けています。また、年度後半には系列園の職員が一堂に会する全体研修を実施する予定です。さらに、法人内施設長を中心とした保育プロジェクトチームを立ち上げるなど、法人理念の浸透と保育の質の向上に力を入れています。

◇特にコメントを要する点

地域とのつながりを大切にし、子どもたちが地域の方々とふれあう機会を設けています。5歳児クラスでは、市内の農園でサツマイモ掘りを体験し、消防署では消防車の見学や消火体験を行い、子ども用の防火服を着せてもらうなど、貴重な体験をしています。一方で、感染症の影響などにより、地域の方との直接的な交流の機会が限られていることを課題として捉えています。今後は、近隣の高齢者施設を訪問して子どもたちが歌を披露したり、地域の店舗を見学したりする活動を検討しています。また、地域の福祉ニーズを把握しながら、未就園児家庭への支援など地域貢献につながる取り組みを進めていくことが望まれます。

職員による自己評価は定期的の実施していますが、職員会議ではクラスの様子や行事の報告が中心となっており、子どもの育ちを深く振り返ったり、新たな視点を出し合って共有したりする機会は限られています。また、外部研修で得た学びは各職員の実践に生かされているものの、その内容を園全体で共有し、保育の質の向上へとつなげる仕組みについては、取り組みの余地が見られます。

学びを共有する過程で事例検討や意見交換の場を設けることにより、職員一人ひとりの学びが循環し、園全体として保育の質の向上へと発展していくことが期待されます。

⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

今回初めて第三者評価を受審し、保護者のご意見や職員の意見を確認できる良い機会となりました。

今回の結果を踏まえ、「地域との交流」を取り入れ、指摘された事に関しましては職員で共有し、より良い保育ができるように改善していきたいと思えます。

引き続き、ご意見を大切にしながら、より良い保育環境の提供に努めてまいります。

⑥各評価項目にかかる第三者評価結果

別紙「評価細目の第三者評価結果」のとおり